

## 一票を投ずる時の理由

「僕は、豚骨ラーメンが食べたいな。」  
「私は、おしゃれなカフェでランチしたいわ。」  
「いやいや、マックでハンバーガーを食べようよ。」  
「ナン食ベ放題で、カレーの美味しい店を知っているよ。」  
「昼食に何が食べたいか仲間に尋ねたりリーダーのあなたは、この状況をどのようにまとめますか。聞いた以上、どれか一つに決めれば採用されなかった希望は却下されたことになつてしまいます。かといって、全員にいいように、全てを食べるわけにはいきませんよね。大変難しい問題ですね。」

一人一人を大切にするために、全員の意見を知るといふことは大変よいことです。言いたくても言えないという人もいるでしょうから、チャンスを与えれば言いやすくなりますよね。でも、一人一人を大切にすることだけではありません。昨日をつぶさに受け止めるということだけではありません。昨日の立会演説会から、私はそう思いました。

改めて選挙を考えてみる必要があります。選挙です。選挙とは選ぶことですが、選ぶためには理由が必要です。候補者がやろうとしていることに賛同できるかどうか

がそれにあたります。  
「どんな取り組みをしたいか」「何を  
変えていきたいか」とかいうことを全校  
生徒に後で募る形では、「この人に任せ  
たい」という決め手にはなり得ません。

「私はこれをやりたい!」「これを変えたい!」というものを明確にもっていることが、その人物の公約となり、一票を投ずる時の理由となるのではないのでしょうか。

リーダーとは、仲間の思いを知って、全ての人にいいように実現する人間ではありません。先の例で言うと、「みんなそれぞれに食べたいものがあるだろうけど、今日は食事時間が足りないから、近くのコンビニで食べたいものを買って持ち帰って食べたらどうだろう。そうすると、昼からの活動に余裕ができると思うよ。どうかな。」と仲間に進むべき方向を提案できる人物です。その提案に賛同できれば、選挙ではそれが一票という形で投票されるのです。

私は意見箱やアンケートを否定しているわけではありません。むしろ設置や実施に賛成です。しかし、全校に案を募る意見箱ではなく、取り組んでいることの評価やアドバイスを求める意見箱であるべきだと思いますが、皆さんはどうですか。



演説を聞く生徒たち